

ぐりふあん letter

おひさま発電所ができました！

陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト



index

- ◆ おひさま発電所ができました！
 陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト . . . 2
- ◆ お正月料理の危機：台所から見る気候変動 . . . 3
- ◆ 市民共同発電という希望を見つけ、実現するために必要だったこと . . . 4
- ◆ ウトロ平和祈念館 雨水タンク設置ワークショップに参加して
 「陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト」点灯式報告 . . . 5
- ◆ 未来の地球を救う力になる子どもたちへ . . . 6
- ◆ きょうとグリーンファンド設立25周年に寄せて
- ◆ 2025年度 環境学習
- 事務局から
編集後記 . . . 7

おひさま発電所が できました！！！！

陵ヶ岡児童館おひさま きらきらプロジェクト

社会福祉法人鏡陵福祉会 陵ヶ岡児童館理事長 中村 かよ

陵ヶ岡児童館の太陽光発電パネル設置事業は、隣接する陵ヶ岡こども園の屋根には 21 年前から設置されおひさま発電所として園児の身近な環境学習の教材の一つになっていましたが、この度、念願であった児童館の屋根にも、NPO 法人きょうとグリーンファンドはじめ多くの方々にご支援ご協力を得て、「おひさまきらきらプロジェクト」が発足し進められてきました。これによって法人として児童館活動としてまた、学童クラブでも一層環境学習への興味を膨らませる機会を得ることができました。

点灯式までに学童クラブで地球温暖化やエネルギーについて事前に学習会をして今後臨むことにしましたが、気候変動や環境破壊が身近になっているのか、とても真剣に参加していた子どもたちでした。かたや「エコメイト」の募集もして太陽光パネルを通してエネルギーや地球環境への取り組みを始めました。

発足して間もなく手探りの状態ですが、環境学習でも学んだことを学童クラブの皆で日々生かすことができるように子どもたち自身で考えたことを取り入れながら進めています。

また、地域へも今後発信する機会を考えて行きたいと思えます。災害時の避難場所や通信機器の充電への役割です。

陵ヶ岡児童館は日ノ岡の地名にある地域の端に位置し固い岩盤の上に立って、昔は田作りが困難なため林となっていたところで日陰にもなっていたので水田作業の休憩場所になっていたようです。社会福祉法人として地域貢献が昔からと形は違いますが、由緒ある土地であることに誇りを持ち、未来を担う子どもたちに豊かな自然と人々の営みが育まれ守り続けられる環境づくりの場となる「おひさま発電所」であり続けられるよう、これからも途切れることなく活動を続けて行きたいと心を新たにしております。

これまでの皆様の温かいご支援ご協力に感謝するとともに今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト 収支報告 2026/2	
収入の部	
プロジェクト寄付金(80件)	581,000
プロジェクト基金助成	500,000
民間助成金(パブリックリソース財団)	26,000
設置施設資金 (京都府自立型再生可能エネルギー導入補助金85万円を含む)	3,754,000
合計	4,861,000
支出の部	
設備設置費 ・太陽光発電(13.2kW) ・蓄電システム(7.04kWh) ・EMS	3,850,000
印刷製本費	197,000
諸謝金	44,000
記録費	55,000
通信運搬費	35,000
旅費交通費	15,000
発電所看板製作費	99,000
事務局経費	560,000
雑費	6,000
合計	4,861,000

(単位: 円、千円以下原則四捨五入)

おひさま発電所は、29カ所となりましたが、児童館への設置は初めてです。

事前の学習会や点灯式も主役は子どもたちで、こども園とは違う発想、雰囲気が進められました。おひさまプロジェクトが始まってからは、子どもたちなりに頑張っているいろいろ考えていました、といった先生方のお話もあり、何か頼もしい感じがしました。

児童館へのおひさま発電所設置は、環境学習との両輪で進めるおひさまプロジェクトの新たな可能性を見出すことが出来たように思います。新たな環境学習のプログラムも準備していかなくてはなりません。

日ノ岡という土地は、硬い岩盤の上にある田作りには適切ではない場所であったとお聞きしました。それ故に、災害時には地域の方々が避難してこられる場所にもなるのではないかと、という視点をもって、この度のおひさま発電所の設置を進めていただけたことは、私たちの望むところでもありました。鏡陵福祉会のみなさまの思いを、大変ありがたうかみしめています。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

お正月料理の危機：台所から見る気候変動

山田 六郎

我が家は代々かなりアナーキーな家風であると自認しているのだが、なぜだか、お正月は写真に収めて図鑑に載せられるぐらい、ちゃんと重箱や漆器に盛るのだ。いきなり何の話だ？と思われるかもしれないが、我が家はかれこれ40年ぐらい「使い捨て時代を考える会」（長いので以下「会」と略そう）の会員である。この「会」では有機農産物や無添加食品を取り扱っている。取扱う野菜や米は基本的に有機・無農薬で、すべてではないものの露地栽培なのである（後述するがすべて露地ではないということにも理由がある）。害虫や雑草除けに薬を撒いたり、温室で石油ヒーターを焚いたりすることはないので、季節の食材はその季節にしか来ない。冬にトマトやイチゴが来たり、夏に白菜やミカンが来たりはしないのだ。だからこそ、有機農業は気候変動の影響をモロに受ける。暑い、雨が少ない、害虫が多い、となるとてきめんに野菜の供給量が少なくなる。私はいち消費者であり、台所で生産者の農家の方々が作ってくれた野菜を日々、調理しているだけだが、その台所から見ても昨今の気象は異常なのだ。

そんなわけで今年のお正月、お節料理に使う黒豆が手に入らなかった。今までなら8月か9月のあたりに出てきていた黒豆の枝豆が無かった。それからしばらく暑いまま秋は過ぎ、11月あたりにようやく枝豆は供給されたのだ。この時点で嫌な予感ではしていた…。ここからひと月で黒大豆が成長し、刈り込まれて乾燥されるのは無理じゃなかろうかと。案の定、お正月食材の注文票に黒豆の姿はなく、あれこれと探し回る羽目になった。最終的にたまたま黒豆を作っていた知り合いから譲り受けることができ正月の黒豆はなんとか穴埋めできたのだが、あわや2026年はまめまめしく勤勉に過ごすことができなくなるところだった。



正月料理の危機はこれだけではない。お煮しめに入れるゴボウとレンコンがかなり少なかったのだ。ゴボウは生産地の奈良が少雨で、レンコンは生産地の熊本が水害で、というのがその原因だった。少雨と豪雨は真逆なだけに一見すると別々の事象によるもののように思えるが、実際には奈良にも熊本にも降るべき雨が、まとまって熊本に「だけ」降ったせいで、さらにいえばこれだって温暖化の影響なのだ。ゲリラ豪雨だの線状降水帯だのといった局地的豪雨に関する注意をメディアで見聞きするのはもはや日常茶飯事であり、農作物はその影響をもろに受けるのだ。局地豪雨によって畑の土が洗い流されてしまうため、やむなく「会」生産者の一部の畑ではビニールハウスを使用している。ちなみに、これは今に始まったことではなく2000年代初頭から（ちょうどゲリラ豪雨という言葉ができたころだ）だそうだが。

京都の雑煮に欠かせないダイコンも足りなかったし、供給されたものはやせていた。足りなかったのは秋が暖かかったので、本来寒さで死に絶えているはずの害虫が芽吹いたばかりのダイコンを食い散らかしたせいだし、やせているのは少雨のせいで、生き残ったダイコンも水分不足で太れなかったからだ。

千枚漬けはもう何年も見ていない。かつては「会」でも作っていたし、私もそのお手伝いに参加させてもらったこともあるのだが、この千枚漬けプロジェクトは2019年を最後に終了してしまった。秋がいつまでも暖かいせいで、完全有機、無農薬、露地栽培のカブが正月までに太らなくなってしまうからだ。

近い将来…、といった漠然とした時間ではなく、はっきり五年後とかにはもう今作っているような伝統的日本の正月料理はできなくなるだろう。日本列島で正月用の食材が作れなくなるのだ。カナダ産だかロシア産だかの黒豆が手に入ればそれでいいだろうか？あるいはキャッサバとかパパイヤでお節料理を作るのか？自称「保守主義」の人たちに聞いてみたいところではある。

市民共同発電という希望を見つけ、実現するために必要だったこと

～出会いとつながり。一步踏み出すこと～

一般社団法人市民共同発電サンサンすいた 代表理事 井上 道代

家事育児とフルタイムの保育士の仕事に忙殺される生活を一区切りし、本当にしたいことは何なのか考える中で、気になったのは気候問題。もともと、自然の不思議さ素晴らしさを子どもたちから感じ、公害や原発は許せないと思っていた若かりし頃。「不都合な真実」の映画を何回も見て、本も読み、気候ネットワークを知り、コロナ禍の中、オンラインセミナーでも学び…。知ったからには、行動しないと…と地元の吹田市で何か取り組みはないのかと、市報を目を皿のようにして見つけた和田武先生のセミナー。「市民共同発電」という希望を見つけ、即、そのセミナーを主催していた「アジェンダ 21 吹田」に入りました。様々な方と出会い学びも深まりましたが、市民共同発電を作るには、人がいない…難しい…と言われ、なかなか実現する道が見えませんでした。

しかし、いろんな場面で「市民共同発電がしたいんです」と言い続け、かかわりを求め続けるなかで、「市民共同発電サンサンすいた」の立ち上げメンバーと出会うことができ、吹田の先進事例の「ぷくぷく市民共同発電」から学ぶ機会も得ました。そして、FIT 価格が下落する中で新たな市民共同発電の設置が難しくなっている現状を知り学ぶ中で、「自家消費をメインとして、みなが応援したい準公共施設への設置」と狙いを定め、実際に施設への設置を検討していきました。

しかし、動き始めて知る様々な壁。屋根の防水工事、高圧か低圧か、キュービクルの改造費用、パワコンによっての違い、屋根の形状と状態によって違う設置工法と費用、10kW 以上か以下の違い、余剰電力量の見極めと FIT 申請…ほんとに電気の素人なので、一つ一つ学び考え対処する日々でした。検討したものの実現に至らないこともあり、ほんとに難しさも感じました。そんな中でしたが、必ず実現しようと、2024 年 5 月 2 日、法人を設立しました。法人を作っても銀行口座がなかなか作れない…という壁もありましたが、何とか一つ一つ解決し、新たな出会いの中で「いのこの里市民共同発電」の取り組みが始まりました。

特別養護老人施設「いのこの里」は、地域の方と一緒に作られた、地域とのかかわりを大切にしたい施設です。

「いのこの里市民共同発電」の取り組みの中で、気候危機に対して何かできることはないだろうか…と思っていた方が、次々と賛同してくださり、予定よりも早く資金も集まりました。2025 年 3 月に工事を終え発電を開始し、4 月に点灯式でお祝いすることができました。

同時並行的に 1 年前から検討してきた、「さつき障害者作業所」の新築移転に伴う市民共同発電第 2 号機の覚書の調印式も 2026 年 2 月に済ませ、3 号機となる「相川診療所」への市民共同発電

いのこの里市民共同発電プロジェクト事業概要

定格出力	9.90kW
パネル容量	18.48kW
予想年間発電量	約 18,000kWh/年
予想年間自家消費量	約 18,000kWh/年
CO2 削減量	約 7.7t/年
設備設置費用 (税込)	3,500,420 円
総事業費 (税込)	4,600,000 円



の取り組みも進めているところです。

思いだけあっても、経験も大した知識もない中でここまで来ることができたのは、様々な疑問に答え、教えて頂いた、市民共同発電の先輩方の支え、様々な団体との交流の中での出会いのたまものだと思います。

ウトロ平和祈念館 雨水タンク設置ワークショップに参加して

安 愛美

2025年11月22日、ウトロ平和祈念館のボランティアスタッフとして、祈念館での雨水タンク設置ワークショップに参加しました。敷地に置かれたコンテナの雨樋に実際に部品を取り付けてみることで、流れてきた雨水がタンクに溜まる仕組みや利用の実際がよくわかりました。

ワークショップでは、雨樋を切る人、部品をはめる人、ホースを繋げる人、、、など一つずつは簡単な作業を参加者で積み重ね、実践を通して学ぶことを大切に京都・雨水の会の皆様の姿勢が、作業の随所から感じられました。気がつけば雨樋とタンクはきれいにつながり、「もうできたのか!」と思うほどあっという間でした。当日は過ごしやすい晴れのお天気で雨は降らなかったため、少しだけ水道水をホースで降らせ、雨樋を伝って水がタンクへ流れる様子を見学しました。完成した装置を前にしながら、溜めた雨水は高頻度に使っていった方がいい、ごみや重いものは沈殿するのできれいな飲める雨水が出てくる(?)などと聞いているうちに、雨水がより身近な存在になったように感じました。

ウトロ平和祈念館の屋上には既に太陽光発電のためのソーラーパネルがあり、自然の力を生かす取り組みが行われています。そこに今回、雨の日の恵みも加わったことを嬉しく思います。空から降ってくる雨を、ただ流してしまうのではなく活用していくこと。その小さな実践がこの場所で積み重なっていくことを願いながら、ワークショップを終えました。

今では、ここで溜められた雨水はウトロ平和祈念館での毎日の畑や植物たちの水やりに使われています。災害時への備えだけではなく日常的に使ってこそ、自然の恵みと生きるということだなと改めて感じます。ウトロ平和祈念館へ来館される際には、ソーラーパネルとともに雨水タンクにも触れてみてほしいと思います。



「陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト」点灯式報告

きょうとグリーンファンド理事 松田 直子

12月25日のクリスマスの日、京都市山科区にある陵ヶ岡児童館のおひさま発電所の点灯式に小学3年生の子どもと一緒に参加してきました。2004年に陵ヶ岡保育園におひさま発電所を設置したご縁と、その後も環境への取り組みを継続して積み重ねられ、今回、お隣の建物の児童館へ実現しました。「陵ヶ岡児童館 おひさまきらきらプロジェクト」で、市民の皆さんから多くの寄付が集まり、児童館を運営している社会福祉法人鏡陵福祉会の資金（京都府自立的地域活用型再生可能エネルギー設備等導入補助事業補助金を含む）と、市民再エネプロジェクト（きょうとグリーンファンド等）in 京都の「おひさま基金」で設置しました。このおひさま発電所は29か所目、太陽光発電13.2kWと災害時対策として蓄電設備7.04kWh、EMS（エネルギーマネジメントシステム）の搭載です。

関係各所からのご挨拶のあと、京都府地球温暖化防止活動推進センターの川手事務局長より「なぜ今、おひさま発電所？」という講座がありました。その後、児童館の子どもたち・エコメイトから楽しいクイズがあり、スイッチを勝手にさわらないなど、クイズを通して伝えたいことも盛り込まれていました。クリスマスらしくサンタに点灯された瞬間、今回の「きらきらプロジェクト」という名称がぴったりだと感じました。京都の木材で作った看板も贈呈され、最後は「手のひらをたいように」をみんなで歌って、お祝いしました。児童館のキャラクターのりょうちゃんは、太陽がモチーフの顔で、おひさまのようにこれからも子どもたちを照らしてくれると思います。

一緒に参加した小学校3年生は、「太陽光発電が付いている児童館はないから、僕の家にもパネル1枚だけあるけど、もっと広がったらいいな」と話していました。子どもたちそして私たち大人もキラキラ輝くあたたかい未来を、と心に刻みました。



未来の地球を救う力になる子どもたちへ

環境腹話術師

ハタさん(畠山 智子)

◆きょうとグリーンファンドとの出会い

2003年、城陽市の清仁保育園と清心保育園でのおひさま発電所点灯式で「地球温暖化防止のために太陽光発電が役に立つ」という内容を子どもたちに伝えるという機会を得ました。それまで子育てサロンや幼稚園などに出向いて、子どもたちや保護者に腹話術を楽しんでもらう活動を続けていましたが、テーマをいただいたの腹話術は初めてでした。

幼児を飽きさせずこの内容を伝えることは容易ではありませんが、腹話術人形の力を借りればやさしくおもしろく伝えられるのではないかと考えお受けしました。「ストップ地球温暖化」を如何にして伝えるか」腹話術で演じるストーリーを試行錯誤し、きょうとグリーンファンドのメンバーと幾度となく協議を重ねて当日を迎えました。

ここで、グリーンファンドとのご縁がつながったのです。それ以降もグリーンファンドの働きかけで1年に1～3か所のおひさま発電所が稼働しました。点灯式の時に、またはずすでにおひさま発電所設置園の環境学習として、「地球のおねつを何とかして助けないと」という内容を腹話術の技法を取り入れ環境腹話術として演じてきました。今年で23年目になります。



初めての環境腹話術

◆環境腹話術ってどんなストーリー

人間が便利に暮らすことで温室効果ガス、特にCO₂が増えすぎて、地球環境が大変なことになっている話を登場したパペットの動物たちと子ども達に伝える。

- ➔相棒のしんちゃんが登場してきて、子どもたちが日常の中でできるエコへの取り組みについて話を進める。(しんちゃんの電気・水・紙の無駄遣いは、子どもたちが地球にやさしくないと教えてくれます)
- ➔園に設置されているおひさま発電所が、おひさまの光という自然エネルギーでCO₂を出さない電気を作っていることを再確認して、温暖化している地球を助けようという気持ちを持ってもらう。

◆ストーリー作りで考えたこと



人気者しんちゃんの登場

- ・30分の時間の中で、いくつもの場面を展開し、子どもを飽きさせない工夫をする。
- ・難しい用語はわかりやすい言葉に変える。(CO₂というワードはそのまま使っています。)
- ・言葉だけでなく見てわかる絵を描き、写真を大きく引き伸ばしたり、パネルシアターを手作りしたりして「CO₂がファンファンファン」と温室効果ガスにたまっていく様子を表す。
- ・地球温暖化の成り立ちや私たちが住む地球に起こっている環境変化を理解してもらう。先生にもストーリーの中で協力してもらう。
- ・子どもたちの心をつかんで、話の中に引き込んでくれる腹話術のお人形たちを活用する。(しんちゃん・かえる・しろくま・ペンギン・ドラゴン・鳥・さるなど)

◆環境腹話術のレベルアップ

毎年、年度終わりには、グリーンファンドとの振り返りミーティングを行ない進化させています。

- ・視覚教材などを追加する。
- ・教材の絵の中に登場していたぐりにゃんとぐりわんのソフトパペットを作る。
- ・パペットのぐりにゃんとぐりわんが腹話術のストーリーにコラボする。
- ・グリーンファンドがおひさま発電所を作ることに協力したことをアピールする。
- ・先生の意識を知るために事前アンケートを取る。先生のエコな暮らし方を聞いてみる。
- ・おひさま発電所があることを先生から子どもたちに知らせてもらう。
- ・ぐりにゃんとぐりわんが伝えるストップ地球温暖化の内容をミニ絵本にして子どもたちに配る。



ぐりにゃん・ぐりわんのパペット

こんな取り組みで出来あがった環境腹話術を見てくれた子どもたちが、ストップ地球温暖化のために生活を見直してくれて、保護者の方にも伝わっていくとうれしいです。未来の地球を救う子どもたちに期待したいですね。腹話術は京都や奈良で教室をもって教えているので、興味のある方はご連絡ください。

きょうとグリーンファンド 25 周年おめでとうございます。

おひさま発電所の建設を毎年積み重ねられ、30 基も目前、日々の地道な活動を尊敬します。25 年前を思えば、世界初の量産型電気自動車リーフが発売された頃。そのまま電気自動車が日本の趨勢になっていくかと思いましたがそれから四半世紀、なかなかそうはならない現実。自然エネルギーの割合、増えてきていますがそれでも 4 分の一ほど。これからも地道な活動が必要です。

小さな私の出来ることもあります。自然エネルギーの電力会社を選ぶこと。古い電力会社を使い続けているならば、自分がすぐに出来ることとして、いますぐにエネルギーチェンジができます。私もそうしました。喫茶うずらの電気もそれです。

また街に新しく「おひさま発電所」ができるならわが街の発電所建設に協力を。きょうとグリーンファンドを応援します。

2025 年度 環境学習

自然観察会は、先生の話聞く「学習の場」だと思っていましたが、自然そのものに耳をすませる時間だと気付かされました。季節の風、足もとの草花、小さな虫の動きに気づいたとき、学びは自然に生まれる事を知りました。それぞれのリズムに合わせて歩き、見て、触れて、感じる事が大切です。名前を覚えることよりも、「なぜだろう」「きれいだな」と思う心を育てることを大切にしなければならぬ事、大人も子どもも同じ目線で発見を分かち合い、驚きや喜びを共有する時間なんだと…

自然に合わせてゆっくり進むからこそ、分かりやすく、そして何より楽しいひとときを過ごす事が出来ることを感じました。

(きょうとグリーンファンド 小森 千恵)

事務局から 事務局に新しい仲間が増えました！

ボランティア活動をするきっかけは、子ども達が学校を卒業した事で身近なところから社会に貢献したいと思ったことでした。たまたま応募したボランティア先が環境関係の場所でした。私自身、正直なところ、それまではゴミの分別について深く考えたことはなく、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「資源ゴミ」程度の知識しかありませんでした。しかし活動を続ける中で、ペットボトルや缶、古紙などがどのように再利用されているのか、また正しい分別が環境保全にどれほど大切かを学びました。ほんの少しの時間が、資源の有効活用や二酸化炭素の削減につながることを知り、自分の意識も大きく変わりました。

ボランティアを通して、環境問題は決して遠い世界の話ではなく、日常生活の中にある身近な課題だと実感しました。これからも学んだことを周囲に伝えながら、できることを一つずつ続けていきたいと思えます。

(小森 千恵)

編集後記

- ・「データセンター」って、そんなに電気が必要なんですか？「AI」って、そんなに必要なのかなぁ。だから、原発を再稼働するのですか？ そんなの「ダメ」です。(KO)
- ・冬季オリンピックを見ていて、選手の最後まで頑張っている姿に感動！環境問題も、コツコツやり続けていけば、結果は出ますよね！(YF)
- ・地球環境は最低限平和でなければ守れない。今度の総理が好戦的かどうか、しっかり監視したい。(TH)
- ・休日の移動は、大阪メトロを利用してます。以前は磁気のカードタイプでしたが、最近はスマホのアプリ内電子チケットを利用。顔認証が便利！両手が塞がっていたり、改札が混んでいても、素早く入場できます。少し疑問なのは、使われるエネルギーとしての負荷はどうか？と思ってます。(YM)
- ・突然の総選挙が終わった。サナエ旋風で自民圧勝。気候危機は話題にも上らなかった。ティッピングポイントを超えたかもしれないのに、背筋が寒くなる。(TH)
- ・今年の桜も、暖冬や急な気温変化の影響で例年より早く開花すると予想されています。開花日が読めない事で予定が立てにくくなりました。(TK)
- ・中東で世界で広がる戦火、「力こそ正義」「力による平和」が声高に叫ばれる。「自由であるためには強くなければならぬ(仏大統領)…他に道はないのだろうか？なんともやりきれない。(SK)

ぐりふあん日誌

<2025年>

- 7/18 陵ヶ岡児童館「市民再エネプロジェクトin京都基金助成事業～おひさま発電所×防災～申請書」受理
- 7/25 第2回下京はぐくみネットワーク実行委員会見学会
／京都中央卸売市場
- 7/26 上鳥羽自治連合会夏の夜市参加／村山公園
- 8/2 第2回自然エネルギー学校・京都2025
／京エコロジーセンター
- 8/6 第154回理事会
- 8/9 上鳥羽北部いきセン「エコまちくらぶ」エコ体験イベント
／上鳥羽北部いきセン
- 9/4 環境腹話術／認定こども園みょうりんえん
- 9/5 陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト打合せ
／陵ヶ岡児童館
- 9/6 第3回自然エネルギー学校京都2025
／京エコロジーセンター
- 9/8 上鳥羽北部いきセン訪問（おひさま発電所設置施設募集について）
- 9/17 環境腹話術／聖光幼稚園
陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト研修会
／陵ヶ岡児童館
- 9/19 自然エネルギー学校・京都2025検討会議／オンライン
- 9/21 LiveDo You KYOTO? Vol.15参加/イオンモール京都桂川店
- 9/29 上鳥羽北部いきセン「エコまちくらぶ」ミーティング
／上鳥羽北部いきセン
- 9/30 事務所賃貸契約更新
- 10/4 下京区はぐくみネットワーク実行委員会見学会
／京エコロジーセンター
- 10/11 第4回自然エネルギー学校京都2025
／特別養護老人ホーム向陽苑
- 10/15 陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト寄付開始
（～1/31）

- 10/16 環境腹話術／つくし保育園
- 10/24 生活クラブ連合会「生活と自治」取材／オンライン
- 10/27 自然観察会（おおやけこども園）／京都御苑
- 10/31 和田雅博さん（下京区はぐくみネットワーク来所）
- 11/1 自然観察会（上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶ）
／東向日公園
- 11/4 ヒアリング（韓国グリーン転換研究所）
- 11/8 自然観察会（認定こども園みょうりんえん）／京都御苑
- 11/15 自然観察会（陵ヶ岡こども園）／京都御苑
- 11/17 陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクトおひさま学習会
／陵ヶ岡児童館
- 11/21 梅沢泰成さん（大阪大学大学院来所）
- 11/22 雨水タンク設置ワークショップ／ウトロ平和祈念館
- 11/30 自然エネルギー学校・京都2025振り返り会議
／オンライン

<2026年>

- 1/19 上鳥羽北部いきセンおひさま発電所設置10周年実行委員会
／上鳥羽北部いきセン
- 1/21 第155回理事会
中田富士男さん（京都市ごみ減量会議会長）来所
- 1/23 聖光幼稚園おひさまプロジェクト設置協力金返還
- 1/26 上鳥羽北部いきセン「エコまちくらぶ」ミーティング
／上鳥羽北部いきセン
- 1/28 NPO法人使い捨て時代を考える会訪問
- 1/30 環境学習振り返りミーティング（腹話術）
- 2/13 環境学習振り返りミーティング（自然観察会）
- 2/25 陵ヶ岡児童館おひさまきらきらプロジェクト打合せ
／陵ヶ岡児童館

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。



★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 35 賛助会員 30

法人会員 6 2026/3 現在

認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火～金 13:00～16:00)

